

開会の挨拶 若林敦（国際啄木学会会長／長岡技術科学大学名誉教授）

国際啄木学会を代表して、開会のご挨拶をいたします。

このたび、淡江大学日本語文学科と国際啄木学会との共催により、ここ淡江大学淡水キャンパスにおいて、このような大規模な学術交流の機会を持つことができました。これは私どもの学会にとって喜びであり、また、台湾での伝統ある日本語文学科との共催をたいへん光栄に存じているところです。

国際啄木学会は今から36年前の1989年、その年の12月に設立されました。その最初期から、ここ淡江大学の林丕雄先生が学会に参加されておりました。

本日は林丕雄先生の奥様がこちらにご来場されています。

たいへん優れた啄木研究者でもあられた林先生のご尽力により、早くも2年後の1991年11月には、第二回大会として台北大会を淡江大学で、国際啄木学会は開催しております。このようなご縁もあり、国際啄木学会に参加する研究者が台湾にはつねに10名前後おられ、現在も8名の会員が在籍しています。

1991年台北大会の後も、台湾では2002年に高雄大会（高雄第一科技大学）、2012年に台北大会（台湾大学）、2014年には南台国際会議（南台科技大学）と、合わせて4回の大会・国際会議を開催してきました。それほどここ台湾は、国際啄木学会が学術交流を重ねてきた、なじみ深い地です。

今回の共催も、現在台湾啄木学会会長を務めて下さっている淡江大学の蔡佩青先生との繋がりにより実現できたものです。国際啄木学会の参加者は韓国から2名、講演と研究発表にご招待いただきました。日本からは発表者3名を含む14名、ほかに台湾の会員2名の研究発表もあります。これらの講演、発表を通じて、皆様には石川啄木という文学者への理解をぜひ深めていただくとともに、石川啄木をなかだちとした皆様との交流がこれからも発展していくことを強く願っています。

この会は、日本にいる会員にもオンラインで視聴できるようにしていただきました。今この場にはいない会員もこの会を視聴しながら、それぞれに学んでくれることと思います。このようにして、この会が参加者一人ひとりにとって意義深いものとなることを期待しています。

以上を、開会のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。